

第8回 第2分科会会議録（概要）		場 所	新宿区役所 第1分庁舎 7階 研修室
日 時	平成17年10月8日 午前10時00分～午後12時15分	記録者	【学生補助員】 田中 岸本
		責任者	区事務局（青柳）
会議出席者： 38名 傍聴者 0名 （区民委員： 32名 学識委員： 2名 事務局： 4名 ）			
■配付資料 1. 第8回 新宿区民会議第2分科会 次第 2. 資料1 第7回 分科会会議概要 3. 資料2 ゲストスピーカーについて 4. 第2分科会 次回開催のお知らせ			
■進行内容 1 開会 2 「生きがい」について 3 その他 4 閉会			
■会議内容 【発言者】●：区民委員 ◎：学識委員 ○：事務局 △：ゲスト 1. 開会 ○：おはようございます。これより第2分科会第8回目を行います。 2. 「生きがい」について ○：今回はゲストの方を4人呼び寄せていますので、ゲストの方に生きがいについてのお話を1人20分程度伺いたと思います。ゲストの方の来歴等については資料2をご覧ください。 （1）北島美篤さん △：おはようございます。私、北島と北島の夫さんでございませぬ。 私は夫が勤めている間、北島さんの奥さんと呼ばれていました。サラリーマンの妻だったからです。しかし、地域で活動していく時には、自分が北島さんとなる、という意識改革が必要でした。だから、今、地域で活動しているのは私ですので、私が北島さんで、この人は北島さんの夫さんです。本人もなるほどと「夫さん」という名前を気に入ってくれています。まずは自分が変わらなければ世の中は変わりませぬ。			

私は、いまテラ・ガーデンを運営していますが、テラ・ガーデンとはどんなものか、テラ・ガーデンのHPから言葉を読み上げさせていただきます。

「ジージ、バーバになりました。私たちにも「青春」がありました。孫どもよ、ジージもバーバもあなたたちと同じ、恋に胸をときめかせた時があったのですよ。別れと死とが日常の時代でした。思いを千々に残して、あるいは大空に散り、あるいは水漬くかばね、あるいは草生すかばね、あるいは空襲の業火に追われて突然断ち切られた人々の人生を背負って生きてきました。

ふと気がつく当たり前のことですが、自分の身の始末はひとに頼れず自分でつなければならぬ時代になっていました。

あの時代を生きてきた方たちが幸せにならない世の中であってはならないと、テラ・ガーデンは考えます。」

テラ・ガーデンの活動は、高齢者のサポートとして始まりました。

まず、新宿区社会福祉協議会の田宮さんとの出会いがありました。6年前、私も枯れも、地域で高齢者は育てるという趣旨に賛同し、高齢者を支える活動をしていました。そんな中、支えが必要な高齢者だけでなく、元気な高齢者もたくさんいる。元気な高齢者がやりたいことをサポートする、そうすると生きがいとなって、ますます高齢者が元気になる、すると医療費も減るじゃないかと。

この発想に社会福祉協議会も全面的にサポートしてくれました。そうでなければ私もこんな無謀なことは一人の主婦ができることではありませんでした。社会福祉協議会との出会い、行政の力と民間の力の良いマッチングであったと思います。

また、私は実績をつくらなければいけないと思っています。「こんなことをやりたいから助けてください」ではいけない。ここ4年間とにかく地域活動に徹してきましたが、今はテラ・ガーデンに出入りする人は100人を超えました。パンク状態で大賑わいです。新宿区も活動を認めてくれて、助成金を出してくれるようになりました。そんなことで今はいい具合で運営できています。

私は、何を考えなければいけないかという、生きがいは、人になくなくてはならないものです。今パソコンを抱えている人は多い。ここ数年、国まで予算をつぎ込んでパソコンを教えました。教え方が途切れ途切れで結局よく分かりませんでした。そのパソコンを持ってらっしゃいよとお話したら、非常に喜ばれました。パソコンが生きがいになりました。けれど皆さんすぐパソコンを壊してしまう。これをサポートする仕組みがほしい。私たちは主婦なので知識がない。そこで閃いたのは、どこかの高校生にサポートしてもらえないかということでした。また社会福祉協議会と相談しました。近所に、不登校児を対象とした通信制の高校があり、そこにITに強い、パソコンが好きな高校生がいる。その子たちをテラ・ガーデンで受け入れてくれないか。その子たちは少し変わっているところがありましたが、だまって受け入れてきましたら、今、大学生になって、立派にテラ・ガーデンを支えてく

れています。

こういったことはまずアイデアがないと動いていきません。時代の流れに乗るのではなく、その先に何があるのかを考えて生きていきたい。

これから、いわゆる団塊の世代が家に帰ってきます。その方たちは、老人クラブや地域の活動に出てこいといってもなかなか馴染まないのではないか。この方々を、行政の力も借りて、ネットワークを作って、自転車でサポートが出来るようにしたいと言うことが、来年以降の目標です。参加した人にはお小遣い程度の収入が得られる、また誰かに頼りにされるということはものすごい生きがいになる。成功すればすばらしいネットワークが築けます。私たちは、個々に活動することはできますが、ネットワークを作ることはできません。行政には、ネットワークがあります。私自身やそれぞれの人が持っている力を、行政が持っているネットワークでつなげば、新しい力が生まれるのです。

私たちはパソコンを使った機械的支援ができます。高校生たちが私に素晴らしい技術、最先端の技術を入れてくれます。私は今、自宅からテラ・ガーデンにあるパソコンを動かせるのですよ。印刷もできます。高校生の子たちがカスタマイズしてくれました。超高齢者から高校生まで、幅広い方が参加して活動してくれています。

今年うれしいことがありました。新宿区の健康いきがい課の示唆もありまして始めましたが、テラ・ガーデンの生徒さん方にここで学んだパソコンの知識を生かして地域に還元してくれるようお願いしています。知識を自分だけのものにしちゃだめよ、と。

卒業生さんたちが、町会の活動のためにエクセルを使ったりして大変だったが、やりがいがありますね、と言っています。また、働くお母さんが「子どもを育てる会」という会を作っているのですが、そのHP 立ち上げのお手伝いもしました。卒業生さんは達成感をすごく感じたそうです。この達成感が生きる力になるのではないのでしょうか。これからはそういうものに価値を見出す時代ではないかと思います。これが私の今年の仕事でございます。

質問がありましたらどうぞ。

●：私はパソコンを習っても、そこでは分かるのですが家に帰るとすぐ忘れてしまって・・・

△：テラ・ガーデンの標語に「分からないことははっきり言う」というのがあります。分からないのはあなたが悪いではありません。わからないものを作るのが悪いのです。パソコンを教えることを始めて愕然としたのですが、そこに書いてあるもので日本語は「ゴミ箱」、これだけです。あとは全部横文字です。これはおかしいじゃないませんか。石ころに躓くのが悪いのではなく、石ころを置いておくほうが悪いのです。忘れるのは年のせいです。しょうがない。忘れたら忘れたといいなさい。こちらは報酬を支払っているのです。すぐ忘れる、と文句を言う講師はやめさせま

す。高齢者をサポートするために雇っているのだからということで、人に頼りにされることを生きがいにするのと、講師は意識改革させています。

●：私は早稲田に住んでいるので、早稲田大学の学生にパソコンを教えてもらっています。

娘に教えてもらおうとすぐ怒られるので……。学生さんは何回も親切に教えてくれます。

また、立ち上げにすごくお金がかかったでしょうに、よくされていますね。区に助成金をもらったとのことでしたが……

△：区には20万いただきました。ですが、これまでの交友関係に私の熱い思いを話したところ、いろいろなところから200万いただいています。そのお金でパソコンを買いました。高齢者は過敏に反応します。使いやすい、最新型を入れるようにしています。

参加者には、テラ・ガーデンにあるパソコンは公共のお金や皆さんの月謝で用意したのだからうちにあるパソコンはみなさんのものです。そのため、パソコンはテラ・ガーデンで使えばいいと言っています。

参加者のみなさんが、デジカメを使うようになると最新のパソコンが欲しくなる。そこで皆さんが最新型のパソコンを15万くらい出して購入されています。これはいいことだと思います。すると、テラ・ガーデンのパソコンは古いといわれて、OSを買い替えたり、いちごっこですね。

娘さんのお話ですが、テラ・ガーデンの合言葉に「親孝行は他人にしよう」とあります。確かに子どもに聞くと、「この間教えた」と冷たく言います。だれが月謝を出したんだと言いたくなりますが言えない。不愉快ですが、とって子どもが冷たいのかと言うと、例えば隣の高齢者には懇切丁寧に教えたりします。これだと思いました。ですから「親孝行は他人にしよう」と。

△：ぜひ、私が考えているサポート作り、新しい生きがいづくりのために、この皆さんの分科会での成果をぜひ教えてもらいたいと思っています。

NPOは変わり身が早い、朝令暮改はあたりまえです。テラ・ガーデンはいかようにも動けます。

大事なことはここへきて、メールの宛名がない人には連絡しないという時代になったことです。電話やFAXと比べて電子メールでの連絡は大変便利だからです。情報から遅れないようにメールが必要になってきました。今はメールアドレスもタダでとれる時代です。

自分で考える力は、高齢者になっても衰えるわけではありません。「なぜこれをやるんだ？」と、自分で考えると脳も活性化します。考える筋道を教えるようにしています。考える力は確実に残っているからです。それを引き出すのがテラ・ガーデンの仕事です。

●：夫さんも何かお話しがあれば？

△（夫さん）：本人はやりがたくさんあるが、自分だけではできません。だから、それをサポートしています。

ただ、何かをやるのに苦痛なことではできません。楽しみを見出せる範囲で続けられればと思っています。

（2）熊谷喜美子さん

△：私はこのようなことに慣れておらず、会の雰囲気も分からないのでメモを作ってきました。それを読み上げる形にさせていただきます。

昭和56年に夫を亡くし、その年に子供達も大学を卒業、就職、結婚したため、25年間一人暮らしをしてきました。このたび、息子が神楽坂に家を建て、一緒に暮らさないかとのことで、札幌に暮らしに別れを告げて、東京に出てきました。

転入届を出しに、まず向かいにある交番に挨拶に行き、特別出張所にうかがいました。すると、出張所の中に「ボランティアセンター」というところがありましたので、新宿で暮らすについてのいい情報はないかとお尋ねし、相談に乗ってもらいました。

「切手」のボランティアがあるとのことでしたので、早速参加することにしました。また病院や図書館とことぶき館といった施設についての情報をいただきました。図書館は階段が少しきついですがさまざまな書籍を利用させていただいています。地域センターにはいろいろなサークルがあり、卓球のサークルもあるとのことでした。新宿区役所では健康や介護についての相談やサポートがたくさん設けられています。

そのほか、地下鉄の駅においてある新宿区の広報などからいろいろと情報を集めています。地下鉄の路線図は私にとって虎の巻です。

新宿区に来て、シルバーパスや銭湯の無料入浴券をいただきました。ありがたく利用させていただいています。敬老の日にはお祝いの会にご招待いただきました。受付で新宿区には5万人もの高齢者が住んでいるとのことですが、すべての方に送っているのかとお尋ねしたところ、事情で来られない方もいるので1万人以上の方に送っているとのことでした。

ことぶき館ではマージャンのサークルがあり、頭の運動・老化の防止になっているとのことです。早速参加しましたが、どのくらい効果があるのでしょうか。

近所の公園や寺社仏閣にも高齢者手帳を見せて、よく訪れています。

健康については、自宅でテレビ体操をしたり、卓球のサークルに参加して汗を流しているのが生きがいになっています。

ところで、今月3日に後楽園で70代くらいのご婦人にお会いしたので、介護のことについて伺ってみました。ご婦人は今はデジカメに凝っており、元気なので介護

のことについては何も考えていないとおっしゃってありました。

バスを待っているときにお伺いした方は、バスの便が少ないので数を増やしてほしいとおっしゃっていました。

60代の方だったのですが、90代のお舅さんを介護してらっしゃるそうです。デイサービスのお世話になっているとのことでした。体操など体を動かすようなこともしてもらえたら、とのことでした。

ことぶき館でお伺いした男性の方はマージャンの時間を増やしてほしいとおっしゃっていました。また、女性の方は、自宅で栽培した花の鉢植えをことぶき館のベランダに持ってきて飾ってくれています。

わたくしの願いですが、ことぶき館の二階では子供達が遊んでいます、お年寄りと話やゲームをして、交流場所になればいいかなと思っています。お年寄りの方も喜ばれますし、子どもたちの情操教育にもいいと思います。他にも高齢者に対し、税金や年金、介護や災害に対する心構えなどの講演などが開かれたりすればいいのにな、と思いました。

介護やボランティアについてですが、オランダに今行っている娘に、オランダのお年寄りや福祉のことを尋ねたところ、オランダは財政も豊かでなく、お年寄りと関わることも少ないので分からないとのことでした。また、娘はアメリカに留学していたのですが、近所の60～70代のご婦人が一週間のうち何日も英語の指導にボランティアで来てくれたそうです。ご婦人方は元気で生き生きとしていたそうです。東京では外人の方をよく見かけると話したら、お母さんも外人の方と交流して英語の勉強などしたらいい頭の体操になるんじゃないの、といわれました。ちょっとこの挑戦は難しそうですが。

また、神楽坂のお祭りにたまたま出くわしたのですが、健康検査が受けられるテントがありました。早速検診を受けたのですが、大丈夫との事でした。そこでお話を聞いたところ、ここは東京保健衛生活動協会という団体が主催しているそうです。丈夫で長生きするために会費制で福祉のネットワークをつくっているそうです。参加してみたいです。

介護についてです。身内の娘が、手足がだんだん動かなくなる病気HAMに係っています。今度この病気に苦しんでいる方たちが全国から東京に集まって難病認定の陳情をしました。車椅子利用者が20名、その介護者が20名と大勢でしたので、東京の交通情報を調べてくれるよう頼まれました。そこで、私がバリアフリーのタクシー手配の手続きや、JRにお願いをしました。東京都にお尋ねしたのですが、懇切・丁寧に教えていただきました。まだ陳情の結果は分からないのですが、なかなか難しいようです。

あかね園には3、4度訪れただけですが、若い職員がお年寄りに親切に優しく、

またキビキビと働いていました。お年寄りたちも玉投げや歌、三味線など元気にご活動されていました。

私自身は生命保険や介護のお世話にならず、保険料が無駄だったかなと思います。東京の生活にもあと数年は楽しみたいと思っています。

(3) 佐野直福さん

△：「なおのり」と読みます。9月8日に100歳となりました。内閣総理大臣、都知事、区長さんからお祝いをいただきました。区長さんには自宅まで来ていただき、お祝い金もいただきました。

妻は99歳で、病院でこの間白寿のお祝いをしました。ただ今病院に入院しております。一人で寂しいですが、社協から、毎日食事などの世話を来てもらっている。楽しく暮らしています。私は社会福祉協議会に5年前にも呼ばれて会合でお話したことがあります。質問があればお答えしますので、ぜひ皆様ご質問等していただけるとありがたいです。

●：日本人の男性平均寿命は77歳で女性は86歳とかなり離れているとのことですが、空気の良くない新宿区で百歳になられたということは、食事や体操といった正しい生活環境を実践されてきたからだと思います。この点についてお聞かせください。

△：おそらくそれは若い頃からゴルフ、テニス、スケートなどのスポーツをしていたからだと思います。健康はつくるもので、その健康があったからこそ、できたことです。

私は実は95歳まで現役で働いていました。普通のサラリーマンの2倍働いていたわけです。

人間は一人で生きていくことはできません。誰かと支えあわなければ生きていけません。私は若い頃からそう考え、社会に恩返ししなければならぬと思ってきましたし、そうできたことに喜びを感じています。

私には妻がいます。今は入院して、話しも出来ない状況ですが、私が見舞いにくくと、目を開いたり閉じたりして少しはわかってきているかなと思っています。若い頃からいろいろとやってくれました。日本の代表的な主婦で、いい妻でした。産婆や看護婦の資格を持っていろいろやっていました。

今は、社会福祉協議会から来てくれる方と、いっしょに食事を作ったりしてさびしさを紛らわしています。

●：長生きというのは、よく世間では遺伝子の関係も左右すると言われています。もし宜しければ佐野さんの家系も長生きのご家庭なんですか教えてください。

△：私は兄弟が14～15人いました。わたしも皆も血圧が非常に低く、100いくかいかないかです。ときどき立ち上がるときなどめまいがいたしますが・・・血圧が低い人は

長生きをされると言われますがそれが原因なのでしょうか。今は私が生きていて、いちばん上で、あと妹が1人います。

●：介護認定を受けていると思いますが？

△：要介護1です。しかし、制度を受ける前、福祉公社の時代から、いろいろとお世話を受けていました。

70年近く働くことが出来たのは神様の思し召しだと思っています。

(4) 日阪秀満さん

△：私は満州で生まれました。中学生の時引き揚げてきて、山口の萩で暮らし、その後新宿に35年間暮らしています。家内は新宿生まれの新宿育ちです。今後も新宿に住み続けたいと思っています。

高齢者クラブですが、いわゆる老人クラブのことです。最近では老人という言葉は使わず、高齢者という言葉を使っており、新宿区では高齢者クラブと言っています。先ほどお話しして頂きました佐野さんは長年会長をやってこられて、大先輩です。

配布されました資料「福祉施策データブック」にもありますが、現在新宿区には平成16年度の高齢者クラブは134あります。

平成17年度の区の人口は30万2479人です。現在やや増加傾向にあり、今後十年間、再開発などで人口は減らないのではと思います。そのうち65歳以上は5万3600人で高齢化率は17.7%です。65歳から74歳までの前期高齢者は2万8770人、75歳以上の後期高齢者は2万4830人、内、女性は男性の2倍います。

現在、高齢者クラブには、134クラブ、8580の方が参加されています。平均年齢は、男性が77.16歳、女性が78.18歳です。四谷、牛込、淀橋、戸塚、落合の5つの地区に分かれています。

高齢者クラブの会員は、かつては1万人を超えていましたが、徐々に下降しています。それには、会員自体の高齢化や新規会員が増えないことが挙げられます。58歳の方から入会できるのですが、64、65歳までの方はまだ働いている方も多く、なかなか入会されないのです。

ちなみに、老人クラブは昭和28年、新宿生活館で老人のつどい、というのから始まったそうです。新宿区は老人クラブ発祥の地なのです。

高齢者クラブの基本方針は、健康、友愛、奉仕です。

権衡については、新宿区が作成した「健康づくりガイドブック」を会員全員に配布しています。また、高齢者向け雑誌「いきいき」は40万部にせまる購読をみせ、「百歳万歳」という雑誌も出しています。売店の「ふくふく」では高齢者用の生活用品を扱っています。高齢者は、マーケットのターゲットとして将来性もあると思います。

健康活動関連としては、介護保険も5年目に入り、見直しがなされ、予防に力を

入れる、という方針になりました。運動に力を入れていくということで、高齢者クラブでも「ゲートボール」「グランドゴルフ」「輪投げ大会」「ウォーキング」「ハイキング」等々を行なっています。

趣味としては「カラオケ大会」「民謡」「囲碁」「将棋」等々会員を集めて活動を行なっています。

地域には「ことぶき館」といった施設がありますが、もっと欲しいという意見もあります。また「ふれあいサロン」や介護予防の拠点としての「地域包括支援センター」など、地域の特性にあった施設のあり方を検討していく必要があると思います。

友愛活動ですが、高齢者相互の支えあい、安否の確認、見守り、またお誕生日会等で励ます、介護保険の相談を受ける、といった役割を高齢者クラブで果たしています。

奉仕活動では、地域の清掃運動、地域の子どもたちと一緒に空き缶回収、地元町会の活動へ、高齢者クラブとして参加しています。

ことぶき館、ふれあいサロンなどにおける活動で、引きこもりがちな高齢者を引っ張り出したり、児童館において、子どもたちとふれあう活動を行なっています。会員の中には、民生委員や、配食サービス、地域見守り活動などのボランティア活動もしています。

また、春には地区ごとに、秋には新宿文化センターで福祉大会を開催して、日頃の活動を発表しています。高齢者が生き生きと楽しそうに参加されています。

高齢者クラブの活動費ですが、会員の月謝は一人100円です。クラブの人数に応じて国・都・国から助成金が出ます。平均で、60人位の高齢者クラブで、年間30万前後で活動しています。

今後は、高齢者といってもひとまとめで考えるのではなく、前期高齢者は奉仕活動やボランティアなどで社会に貢献してもらいたいと思います。後期高齢者は余生を楽しんでもらうといった考え方もあっていいのではないかと考えています。

かつては高齢者をご隠居としてご意見番の役割がありました。最近では核家族化が進み、かつてとは状況が異なってきました。IT時代にもなり、今までの知識や経験だけではこなせない時代で、なかなか馴染めない高齢者もいます。

ついでの話ですが、高齢者クラブでも年間の活動、決算等の資料の作成には北畠さんのお手伝いを頂いています。

今年の4月に経済財政諮問会議がありましたが、この中で「健康寿命80歳社会」というものが提言されていました。今まで75歳が目標だったものが80歳になりました。元気な高齢者は労働や消費の面で活躍してもらいたい、そのため医療制度なども変えていく方針が打ち出されました。高齢者は時間を自由に使える、時間持ちであると述べられています。これをぜひ活かしてほしいと言っています。高齢者は

まだまだ頼りにされ、出番があると思います。

高齢者クラブは、地域社会において、高齢者のコミュニティとして集まれる場所を作っていく役割を果たしていきたいと思っています。残念ながら、会員の中にも引きこもりが増えて参加者が少なくなって来ています。高齢者クラブの活動を支えていくリーダー作っていくことが我々の責任だと思っていますがなかなか困難です。ムラの社会、地縁といった昔の日本社会のあり方が崩れてしまっていますから。

私が期待しているのは、団塊の世代、昭和22～24年生まれの方を言いますが、全国で679万人います。これの方が一斉に定年を迎えるわけです。もちろん仕事を続けられる方もいますが、その方も高齢者の仲間です。この世代の方の有能な能力、実行力を、組織やネットワーク作り、環境整備や子育て支援などに活かしてもらいたいです。特にNPOの活動、今の高齢者にはなかなか理解できない面がありますが、NPOは有効で参加しやすい活動形式だと思いますので、団塊の世代の方々に事業を立ち上げていただきたいと、大いに期待しています。

4人に1人が高齢者という時代になっていきます。これは高齢者が大きな発言力を持つ、あるいは発言できる権利があると同時に、責任を持っているということです。この点を深く自覚して活動していかなければならないと思っています。

(4) 質疑応答

○：ありがとうございます。ご質問があればどうぞ。

●：日阪さんに質問、というか区にお願いします。新宿区の助成金は提出書類が複雑すぎます。聞くところによると、昭和40年代の厚生省の書類の書き方そのままじゃないですか。参加する人の年間延べ人数なんて私ひとりでは正確にはわかりません。だいたいになってしまいます。そんなもの誰が見るんでしょうか。

●：おっしゃる通り、参加者の延べ人数などは不必要なものかもしれません。でもかっちりやることはそれだけ、制度がしっかりしているということである意味必要なことだと思います。事業報告書などで事務的に誰も見ないものなど、不必要なものは改善していくということも必要ですね。それも1/4の力をもって取り組んでいきましょう。

○：区や国、都といった公共機関が団体に対して助成を行う場合には、それが正当な支出かどうか証明するために、実績等の報告をお願いしています。また、区としては、補助が本当に効果的かどうか検証を行必要があります。そのために高齢者クラブについては、現在詳細な資料を提出いただいています。ただ、その際必要なものかどうかについては、適宜検討する必要もあるとは思っています。

●：熊谷さんに質問です。この講演のために街でリサーチなされたこと、とても感激しました。札幌にお住まいになっていたときも、今のように外と積極的に関わっていられたのでしょうか。

△：札幌で、55歳で一人暮らしをしてきました。その時もときわ大学という高齢者対象の大学があるのですが、そこに通っていました。卓球のサークルにも所属し、それが生きがいとなりました。札幌にいるときもそのように、好きなように外と関わってました。

(5) まとめ

○：ありがとうございます。それでは、本日のまとめを岩崎先生をお願いします。

◎：今回はいつもの区民会議とは違って、ゲストの方にお話を伺いました。北嶋さんからは、思いをどう実現するのかということ、同時に周りの方、具体的には北嶋さんの夫さんですが、の大変さ、スタッフがあってこそ可能なんだという一面も垣間見えました。熊谷さんには、区民が実際にどう情報を入手して役立てているのかということ、佐野さんには、私たちの生きるモデルとして、また、日坂さんには資料を使って高齢者の現状と課題、高齢者クラブのあり方についてお話していただきました。次回分科会では、今回を踏まえて、グループに分かれて意見集約をしてもらいたいと思います。

3 連絡事項

(1) 12月21日(水) 時間について

会場等の都合上午前10時からに変更

(2) 臨時世話人会

10月19日(水) 午前10時30分 交流の場

4 閉会

○：それでは、本日はこれで終わりにしたいと思います。

<次回日程>

・10月26日(水) 午後2時から4時

新宿区役所 第2分庁舎 2階 2-①会議室